

CISMID 主催 「世界津波の日」 記念行事

片山大使挨拶【2021 年 11 月 4 日（木）、11:00～13:00】

おはようございます。本日は、「世界津波の日」記念行事に出席できることを嬉しく思います。

まず、この場をお借りして昨日 11 月 3 日、元 CISMID センター長であるホルヘ・アルバ・ウルタド元 UNI 学長に対し日本政府の叙勲が決定されたことを心より祝福いたしますとともに、同氏の長年に渡る貢献に改めて敬意を表します。

本年は、国連において「世界津波の日」が制定されて 6 年目になります。自然災害、とりわけ津波災害は、一瞬のうちに多くの犠牲を生む恐ろしいものであり、太平洋を挟んで向かい合ったペルーと日本は、等しくその危険性と常に隣り合わせにあります。このような行事を調整いただいた CISMID の皆様に誠に感謝申し上げます。

本年 9 月、日本政府の支援による東京大学、CISMID 等の共同研究による 5 年間の SATREPS プロジェクトが開始しました。それを機会に私自身 CISMID を訪問し、現場で関係者から説明を受ける貴重な機会を頂きました。SATREPS プロジェクトを通じた研究により、リマ首都圏のインフラの被害予測システムが開発される予定と伺いました。

本日の講演会では、日本の研究者からも本プロジェクトに関連した講演をいただく予定と伺っています。講演会の成功を祈念しております。

2023 年は、両国が外交関係を樹立して 150 周年に当たります。日本政府・大使館としても、長い友好の歴史を持つペルーとの防災能力の強化に、引き続き協力を進めてまいります。

ありがとうございました。